

## 1000円のハードル

2025. 9. 22

ついていけない。物の値段が上がっていく。頭では仕方がないこととわかってはいる。だが、金銭感覚が追いつかない。どうも、長期間に及ぶ安価競争に慣れてしまったようだ。100円ショップや300円ショップが当たり前になっている。

もう随分と前のことになる。1000円を超えるハンバーガーが出てきた。ハンバーガーといえど気軽に食べられる代表格のような存在である。それが、1000円を超えては、気軽に手を出す気にはなれない。まだまだM社の100円バーガーの残像を消し去ることができずにいる。勝手に、ハンバーガー＝安いものと思いこんでいる。だが、もはや現実はいくら違った様相を呈している。

確かに、初期の1000円を超えるハンバーガーは、大きかった。写真を撮るにはいいのだが、いったいどうやって食べるのかという疑問が残る代物だった。ところが、徐々に通常のサイズでも1000円を超えるのが当たり前になってきた。それでも、美味しいのであれば、納得がいくかもしれない。

数年前に、横須賀に行ったことがある。どぶ板通りという場所がある。そこには、スカジャンを売っているお店など、個性的な店舗が並んでいる。その中に、ネイビーバーガーと呼ばれる極めてシンプルなハンバーガーを提供するお店があった。ちょうどランチタイムだったため、食べてみるかとなった。お値段は特別高くはなかった。普段から物の値段を気にしているわりには、観光地に行くと、急にリミッターがはずれるから不思議である。さほどの期待はしていなかった。だが、少しばかり驚かされた。美味しかった。こんなに美味しいハンバーガーを食べたことはなかった。これならば、多少高くても食べる気になる。

ラーメンが高くなった。いつの間に、1000円を超えるようになったのか。ためらいもなく1000円のハードルを越えてきた感がある。以前であれば、チャーシューなどのトッピングをすれば1000円を超えていた。あっという間に、元々のラーメンが900円から1000円になり、トッピングによっては1200円が当たり前となった。もはや、トンカツ定食と変わらない。だからといって、食べないのかというと食べる。食べるのだが、頭の中には、まだまだ480円ラーメンが残っている。

カレーライスも1000円でおさめるのは難しくなってきた。カツカレーが好きである。1000円を超えないカツカレーを探すのは容易ではない。食べるという行為に対しては、1000円が一つの基準となっている。できれば、1000円以内で何とかしようとしている。だが、現実は厳しい。仕方がないと思いながら、1000円のハードルを超えてしまっている。そういった世の中である。慣れるしかないのか。今となっては、280円ラーメンが懐かしい。